

## 保護者の皆様へ



東北大学医学部 医学部長  
八重樫 伸生

新型コロナウイルスの世界的流行（パンデミック）が続く中で社会の動きが従来とは大きく変わってきました。東北大学でも特に学生教育への影響は大きく、保護者の皆様も大変心配されていることと思います。

現在、教室内で対面で行う講義のほぼすべてがTV会議システムを用いたオンライン授業となりました。従来の講義は50人から100人程度が一教室に入って教師と対面で行われてきましたが、オンライン形式になったことでかえって教員が身近に感じられ質問もしやすい、という意見もあります。一方で、教員側のオンライン講義に対する準備不足や不慣れのために、学生側から不満の声も聞こえています。また講義が終わってから学生同士で気軽におしゃべりしたり街に出たり課外活動をしたり、というようなことがなくなりましたので、学生の孤独感が大きく精神的ストレスが溜まっていることもアンケート調査等でわかってきました。そういった学生には教員が個別に対応していません。

講義ばかりでなく実習の占める割合が他学部に比べて大きいのが医学部の特徴です。他学部の実習では工夫をすればオンライン上で十分に指導できるものもあるようです。しかし、例えば解剖実習はご遺体と向き合うこと自体が実習の大きな意味となっており、それを通して得るもの大きさを医療従事者であれば知っています。密を避けていかに安全に解剖実習を行うか、担当教員や事務職員が工夫しながら進めております。

病院に出て行う臨床実習や臨地実習は将来の医療を担う人材育成にとって欠かせないものです。首都圏の医学部では病院に学生の受け入れが許可されないために、やむを得ず臨床症例をオンライン上で提示しながら模擬的な実習を行うことで病院実習に代替しているところもあります。東北大学では医学部と大学病院がよく相談しながら実習を継続しています。従来の実習に比べると不完全な面もありますが、学生も状況をよく理解しながら粛々と実習を継続しております。

試験をどうするか悩ましいところです。教室に集めての試験を行わずレポート作成などで試験に代えている学部もあります。しかし、医学部の場合には国家試験に合格して初めて大学卒業の意味が出てきます。その国家試験に合格するには並大抵の勉強量では追い付かず、ある程度、段階ごとに試験を課して学生一人一人の学力を上げていく必要があります。幸か不幸かしばらく課外活動ができない状況ですので、使用されない医学部体育館を試験会場として試験を実施しています（写真）。

今回のようなパンデミックは100年前のスペイン風邪以来とされています。一方で、今後は新型コロナウイルスによるパンデミックがより頻繁に起こるだろうと予測されています。パンデミックの中で大学生活を過ごした経験は、将来、医療現場の第一線で働きながら次のパンデミックに出会ったときに必ず生かされるはずで、そのときには多くのヒトを救うことになるだろうと思います。学生たちには、現状を悲観してばかりいるのではなく、他の世代が経験できなかったことを経験できるチャンスととらえ、前向きな気持ちでコロナ禍を乗り切ってもらいたいと思います。

私たち教職員側も初めてのことで、さまざまな対応が不十分あるいは不適切なことがあると思います。自粛が続く中でも教育や学生生活を少しでも改善していきたいと考えておりますので、お気づきの点がありましたら遠慮なくご連絡ください。



## 東北大学医学部学生後援会(PTA)へのご支援を引き続き よろしく願いいたします

東北大学医学部学生後援会会長 東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野

上月 正博



盛夏の候、ご父兄の皆様方に於かれましてはご健勝のことと存じます。

東北大学医学部学生後援会は、医学科・保健学科の学生の皆さんがよりよい学生生活を送れるための支援と、ご父兄との連携を目的に、2008年に設立されました。私は、前任の阿部高明先生の後を引き継ぎ、本年度より会長を拝命いたしました。微力ではございますが、本後援会の益々の発展に尽くす所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、新学期が始まり既に4ヶ月が経ちました。新入生会員の皆様に対しては、本来であれば、入学記念祝賀会を開催し、ご父兄・新入生、そして教員の方々の間で楽しい交流の場を持つはずでしたが、COVID-19感染症の影響のため、やむなく中止に至ったことはすでにご存じのとおりです。現在も、「3密」を防ぐために講義や実習が主にリモートで行われ、クラブ活動も原則禁止になっているために、学生同士の交流が十分に行えない事態となっておりますこと、残念に感じております。ただ、病院実習も再開され、徐々に正常化に向かっておりますので、ご安心いただければと存じます。

さて、本後援会活動を改めてご紹介させていただきます。ご父兄の方々から本後援会にお振り込み頂きました会費は、学生のさまざまな活動の支援に使われております。学生の教育活動に関わることは、原則的に大学側が負担するべきですが、中にはその負担に限界があったり、資金提供が難しい事業もございます。例えば、本後援会では医学部図書館に対して、学生の使用頻度の高い参考図書の寄附を行っています。毎年、学生の白衣あるいは医学部バッジの購入にも本後援会費の一部が充てられております。

また、例年、入学記念祝賀会の開催費用、新入生全員参加のアドバイザー教員とのオリエンテーションでの昼食費、学生の研究成果発表会、卒業祝賀会(謝恩会)にも支援を行っております。広報活動として会報の発行にも後援会費が充てられております。また、本年5月には、医学部・大学病院に対して不足していたマスクを18,000枚ほど提供し、病院実習な

どに役立てていただいています。また、学生の課外活動支援(クラブ・サークル活動などへ援助)、医学部学生会の支援にも使われております。

さらに、医学部医学科・保健学科学生が自主運営するオープンキャンパスに参加するボランティア学生へのユニフォーム製作代(全国の大学で本学のもののが最も高校生の参加者数が多く、評判も良いようです)や医学祭(3年に一度の市民向け企画祭)にも援助しています。このように、毎年10以上の事業について、着実な支援活動を行っています。

このように本後援会は、学生さんの教育及び課外活動に対し、出来る限りの応援をしております。これまでの活動の詳細については、本後援会のホームページ内の会報のPDFをぜひご覧いただければ幸いです。未加入のご父兄がおられましたら、ぜひご加入をどうかよろしく願いいたします。また、本後援会に対してご質問やご要望等がございましたら、お気軽に本後援会事務室までご連絡くださるようお願い申し上げます。

このように本後援会はさまざまな事業の中でご父兄の方々との連携を深め、医学部学生生活のますますの充実・発展を目指します。ご父兄の皆様におかれましては、本後援会への応援を引き続きどうかよろしく願い申し上げます。



## Withコロナの医学教育



医学科長 石井 直人

はじめに、新型コロナウイルス感染拡大防止のために4月からの時間割や講義・実習方法に大幅な変更が生じ、学生や保護者の皆様に多大なご迷惑とご心配をお掛けしていることをお詫び申し上げます。

ご存知のように、医学科では4年次の共用試験CBT/OSCEと6年次の医師国家試験の2つの大きな試験に合格することが義務づけられており、これらの試験に合格することが医学科に入学した目的であると言っても過言ではありません。そのため、「筆記試験による学力評価とその評価のフィードバック」と「解剖実習や臨床実習」は医学教育において不可欠であり、特にこれらの実習を経ずに医師となることはできません。

そこで、本医学科では、他大学医学部に先立って5月上旬より対面型試験と実習の再開についての検討を始め、県と市から許可を得るのに時間がかかりましたが、ようやく6月1日(月)から臨床実習(5、6年生)を、対面型試験(全学年)を再開することができました。感染防止対策として、医学部体育館に2.3m間隔で座席を配置するなど対面型試験を実現しました。この方式は写真入りで新聞報道され全国から注目されました。

多くの新生が初めての一人暮らしを始めた中で、授業がオンラインのみで実施され通常の活動ができないまま新たな友人を作る機会もなく、自宅にとじこもり勉強や課題作成に苦闘している状態をとっても心配しております。例年であれば、先輩からのアドバイスや同級生との情報交換によって大学生活のペースをつかむことができます。しかし、今年はそれができず、土日も

終日、パソコンの前で録画授業の視聴や課題の作成に費やしている1年生が少なくないという状態は看過できません。そのため、夏休み明けからは、1年生に限り対面授業を開始する予定で準備を進めています。また、たくさんの先輩が新生を支援するボランティアに志願し1年生の相談にのってくれたおかげで、上述のような問題をいち早く突き止め対応することができました。医学科の学生達の後輩を気遣う温かい気持ちと困っている人を助けたいという共助の精神を教員として誇りに感じています。この場をお借りして、医学科学生の皆さんに心より感謝いたします。

より良い医師の養成はWithコロナ社会からの強い要請であると感じています。近い将来、学生や教員にも感染者が出現することが予想されますが、できる限りの感染防止策をとりながら医学教育を継続する必要があります。本学から、コロナと共に生きる新しい社会を切り開いてくれる多くの医師、医学研究者が巣立つことを期待しています。



解剖実習前の検温

## 2020年度 保健学科の教育活動

### — 健康を守り保つこと“保健”について考える好機に —



保健学科長 大森 純子

保健学科では3専攻の教職員が一丸となり、学生の健康と安全を第一に教育活動を行っています。新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じた方策を検討し、3月から春季休暇中の在校生の所在を確認し、国外にいる学生には帰国を要請、渡航予定の学生には自粛を呼びかけました。また、新学期に向けて、3専攻の教員によるオンライン・クラス実施ワーキンググループを立ち上げ、4月10日には在校生の進級オリエンテーション、同13日には新入生オリエンテーションを



保健学科：専門科目の筆記試験（2020年7月20日）

Google Meet で実施しました。保護者の皆様には、インターネット環境の整備等オンライン化にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

今年度は、看護学専攻69名、放射線技術科学専攻37名、検査技術科学専攻36名、合計142名の新入生を迎え、教育活動を開始しました。4月3日に予定していた入学式も祝賀会も中止となりましたが、1年生はオンラインによるオリエンテーションで各専攻の教員と初対面しました。その後、学生ピアサポート制度が導入され、上級生との交流もオンラインで始まりました。本学科では、チューター教員が入学時から卒業まで、学生個人々のニーズに応じて伴走支援する体制をとっています。勉強の悩みや先々の不安、孤独感など蓄積していないか、折に触れ、メール交換やオンライン面談を続けています。

6月下旬から、最大限の感染防止対策を講じ、保健学科棟で演習・実験・実習、東北大学病院の実習、専門科目の筆記試験や対面式のサポートが始まりました。今後も、仙台の感染拡大の状況を注意深く視ながら、新しい生活様式を取り入れ、段階的に星陵キャンパスで活動できることを増やしていく予定です。

#### ●看護学専攻 専攻主任：吉沢 豊子 教授

COVID-19の収束を願い、今年度は異例のオンライン授業・実習が開始されました。流石、医療職を目指す学生たちの危機意識は高く維持されています。素晴らしいことです。そしてこれからは、ウィズコロナの中で、学生と共に授業や実習の在り方を考えるときです。その一つとして、看護学専攻4年生助産選択者の学内演習が始まりました。フェイスシールド、手袋、マスクという厳重ないでたちで臨みつつも、助産ケアは接触ケアであるため、産婦さんを尊重したケアをどのように提供するのか考え、ナイチンゲールのケアの精神に戻りながらの演習でした。



看護学専攻：助産技術学Ⅱ - 演習（2020年7月20日）

●放射線技術科学専攻 専攻主任：植田 琢也 教授

新型コロナ感染症拡大の中、放射線専攻ではいち早くオンライン授業への移行を推進し安全を確保しつつ、学習の機会が損なわれないことがないよう、その方法を懸命に探ってまいりました。医療技術の獲得に不可欠な病院実習では、感染対策に最大限配慮しつつ、実習時間短縮による学習機会の喪失を自主学習によって補いながら、放射線医療技術が着実に身につけられるよう工夫しています。病院実習に入った学生からは「病院での徹底した感染管理を目の当たりにして、医療従事者として身の引き締まる思いがした」といううれしい声も聞かれています。



放射線技術科学専攻：画像診断系検査技術 - 病院実習 (2020年7月20日)

●検査技術科学専攻 専攻主任：三浦 昌人 教授

検査技術科学専攻では4月20日から全ての講義を、4月30日から学内実習をオンラインで開始しました。しかし、学内実習の中にはどうしてもオンラインでは伝えきれない手技があるため、6月19日からマスク・フェイスシールド・手袋の着用や十分な距離の確保など最大限の感染対策のもとに心電図や採血など最低限の実技を伴う実習を始めました。また、6月1日から卒業研究を保健学科と医学科の研究室でやはり十分な感染対策のもとに実施しています。感染予防と知識・技術の習得の両立を目指しながら今後も知恵を絞りたいたいと思います。



検査技術科学専攻：臨床生理学 - 学内実習 (2020年7月2日)

医学部の教員と職員が知恵を出し合い、2020年度が始まり4か月が経過しました。学生たちは、定期的に同期会をリモートで開催し、そこで交流することで不安を解消し、課題の相談や勉強の仕方など共有しているようです。このような難局にもしなやかにたくましく向き合い、心身のセルフケアを実践し、支え合っ

ている学生たちの様子を頼もしく感じます。コロナ時代の教育活動には、長期的な構えやチャレンジが必要となります。保健学科のすべての経験を、健康を守り保つこと“保健”について学生と教職員がともに考える好機にしていきたいと思います。

今後ともご支援の程よろしくお願い申し上げます。



保健学科：チューター教員による新生児サポート (2020年7月30日)



## 学生目線での医学部の現状と伝えたいこと



東北大学医学部 5年 渋井 愛子

今年1月に「原因不明の肺炎」が中国武漢で確認された、というニュースが出たとき、どこか他人事のように見ていたことを覚えています。インフルエンザが流行する時期だったので新型インフルエンザだったら嫌だと思える程度でした。それが新型コロナウイルス「COVID-19」が原因であることが突き止められ、日本でも感染者が出たことが報道されても、やはりほとんどの学生が講義や実習が中止になるほど流行するとは想像していなかったと思います。1月から講義・試験、2月からは臨床実習が始まっており、部活動も行ってたので、自分たちの生活に関係するとは考えられなかったのです。

しかし、その日常は春休みを終える頃に急変してしまいました。3月の終わりに講義と実習の中止が通達され、課外活動や飲食店でのアルバイトは禁止となりました。入学式は中止となり、この原稿を書いている今なお、新生は顔を合わせて同期と話す機会をもたないままです。そんな新生のサポートをするため、学生有志が主体となり、4月に「新型コロナウイルス対策委員会」が発足しました。本委員会は新生サポートの他、在校生同士の交流や意見交換も目的としており、たくさんの学生が参加しました。Zoomなどを活用しながら新生の疑問に答えたり、オンライン授業・実習について学生からの意見を集約したりと、オンライン授業が開始するまで活発な活動が見られました。また、本委員会運営において医学教育推進センターの岩崎淳也先生に多大なご協力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

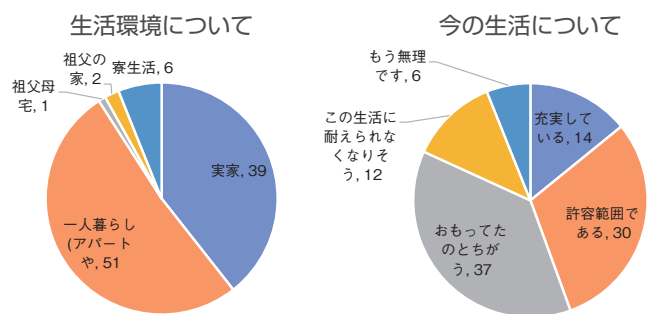
現在、1～4年生はオンライン授業を受けています。当初、慣れない講義様式や課題の多さに戸惑いの声がありましたが、チャットを用いて質問しやすくなった、という利点もありました。また、5～6年生については5月からオンライン実習という形で始まり、その後6月から病棟での実習が始まりました。どの学年でも先生方のご尽力のおかげで感染対策に留意しつつ学べている状態です。

そのなかで耳にするのは学生のメンタルヘルスについてです。家で大量の課題をこなす毎日に対する虚し

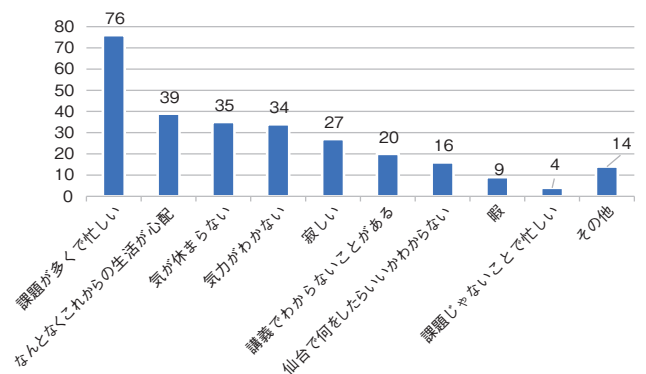
さ、大学生ばかりが講義や課外活動が禁止されている不満などから無気力になっていたり、家にいても気が休まらない学生が増えているように感じます。先日新生を対象に行ったアンケートでは20%弱が思い描いていた大学生活とかけ離れた日々に限界を感じつつあると回答しました。精神的な不安を感じやすい今、ぜひお子さんと連絡をとってあげて欲しいです。大学生になり、親元を離れると、自分から何気ない連絡を取れる学生は少ないのではと思いますが、このような時に自分を心配してくれていると感じる電話やメールはとて心強いはずで。私自身、この5年間あまり電話をしてこなかったで、今更自分からするのは恥ずかしいため、ふとかかってくる電話やLINEに安心し、嬉しくなります。

最後になりますが、この度の新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の対策として、医学部学生後援会様より不織布マスク18000枚のご寄付を頂戴しました。厚く御礼を申し上げます。

### 1年生の実態調査



### 何か困っていることありますか？



## 第10回 医学部医学科白衣式報告書

医学部医学科長 石井 直人

令和2年2月3日(月)、第10回医学部医学科白衣式が医学部開設百周年記念ホール-星陵オーディトリウムで開催されました。

八重樫医学部長を初め、教授、教育担当主任が列席の上、来賓として東北大学病院長、看護部長、診療技術部長、医学部学生後援会長をお招きし、新5年次学生保護者にも多数参観していただきました。また1年次学生も参観し、目指すべき将来像を肌で感じてもらうことができました。

白衣式では、医学部長より新5年次学生代表へ大学のロゴマーク入りの白衣が授与され、次いで Student Doctor 認定証および病院カードが授与されました。続いて各教授より新5年次学生全員に白衣が授与されました。

学生代表からは、これまで支えていただいた多くの方々への感謝や、医師を目指す者としての責任と臨床実習に向けた心構えについての決意が述べられました。

今年度も荘厳な雰囲気の中、臨床実習開始の節目としてふさわしい晴れやかな式典となりました。

最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心より感謝申し上げます。



## 医学部保健学科看護学専攻のウェアセレモニーがweb開催されました

令和2年7月6日(月)医学部保健学科看護学専攻のウェアセレモニーが、web開催されました。

看護学専攻の代表4名の学生とwebで参加した3年生に、八重樫医学部長、大森保健学科長、鈴木看護部長、上月医学部学生後援会会長から、激励の挨拶がありました。

その後、全員の名前が読み上げられ、東北大学医学部のロゴマーク記念バッジが代表の関澤さんに大森保健学科長から授与されました。また、学生代表の安澤さんが、力強く決意表明を行いました。

最後に、吉沢看護学専攻主任からの激励の言葉で終了しました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大等予防のため、webを使った開催となりましたが、今後も学習の機会を大切に、頑張って取り組んで行ってください、というお話がありました。



## 医学部学生が、オンライン授業をサポートしています

新型コロナウイルス感染症の影響で、授業はオンラインのみ、課外活動禁止、アルバイトも自粛という厳しい状況に置かれる学生の不安軽減のため、東北大学では様々な支援策を講じています。

その一つ、オンライン授業推進のエキスパートティーチングアシスタント雇用制度を活用して、医学部学生が、教員が実施するオンライン授業をサポートしています。



2020年4月の様子

東北大学 HP (2020年4月23日掲載)

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2020/04/news20200423-01-shien.html>

## 京都大学本庶佑特別教授によるオンライン特別講義 「獲得免疫の神秘を覗く」が開催されました

東北大学医学部では国内外から著名な研究者を招聘して、特別講義を実施しています。

今回は、令和2年7月29日(水)に3年次基礎医学特別講義として、本庶佑先生の特別講義(オンライン)を東北大学大学院医学系研究科と東北大学研究推進・支援機構知の創出センターの共催により開催しました。

本庶佑先生は免疫を抑制するタンパク質「PD-1」を発見され、がん治療に画期的な「免疫療法」を拓きました。この「免疫抑制の阻害によるがん治療法の発見」により、2018年のノーベル生理学・医学賞を受賞されております。

今回の講義では本庶佑先生が抗体研究を始めるきっかけとなる人との出会い、PD-1(Programmed death-1)の発見と機能解明、さらに、ヒトPD-1抗体によるがん治療についてお話いただきました。

これから研究を始めようとしている学生に対して、研究により21世紀はがん根絶が可能になる時代である

というメッセージとともに、研究の楽しさを伝えていただき、講義終了後には学生との活発な質疑応答が交わされました。学生にとって大変貴重な経験となりました。

下記のページに講義の動画を公開しております。

※英語サイトとなりますが、講義内容は日本語となります。

<https://www.med.tohoku.ac.jp/news/4419.html>



## マスク寄贈のご連絡

昨年12月以降、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生が報告されて以来、日本をはじめとして世界各地から報告が続いています。本学でも影響により学位授与式、入学式等のイベントが中止となり、例年、医学部学生後援会で主催しておりました入学記念祝賀会も残念ながら中止の運びとなりました。

このような状況でございますので、医学部学生後援会といたしまして別の方法で微力ながらご協力させていただきたく、関係各位と協議の結果、マスクを18,000枚ほど提供させていただきました。

マスクは医学部・大学病院の担当者に管理・配布を委託し、実習の場面などで学生に配布される予定です。これにより、実習などでの学生の個人的負担を減らして学業に専念していただければ幸いです。



学生後援会事務局 (PTA)

## 編集後記

新入学の学生・保護者の皆様、ご入学、ご進級おめでとうございます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症が流行に伴い学内行事等のイベントも中止や延期となりました。

残念ながら学生後援会主催の医学部入学祝賀会も中止となりました。

現在も先が見えない状態ではございますが、後援会といたしましては今後も医学科及び保健学科で計画されます様々な行事への助成及び学生の教育活動への支援など

を継続して行い、医学部全体の充実をより一層図っていきたく思っております。

感染症の一日も早い収束のため、皆さんで感染拡大防止を徹底し、この難局をなんとか乗り越えましょう。

学生後援会事務局 (PTA)



### 東北大学医学部学生後援会(PTA)事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1  
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp  
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>